

会議の概要（議事録）

会議の名称	(番号) 1-49	第5回墨田区基本構想審議会		
開催日時	令和7年3月27日(木) 19:00から21:00まで			
開催場所	区議会第2委員会室			
出席者数	<p>【委員】加藤久和(会長)、上野武(副会長)、阿部貴明、角山剛、駒村康平、鈴木みゆき、山本俊哉、老田勝、井上佳洋、森山育子、佐久間之、島田泰子、鎌形由美子、星野喜生、西村孝幸、平林秀敏、山室学、須藤正、杉山達雄、金谷直政、岸成行、木村優太、佐藤祥子、真鍋文朗、山口亮 (計25名)</p> <p>【事務局】岩佐企画経営室長、楠政策担当課長、政策担当主査(矢野、原、田部井)、政策担当主事(田中)</p>			
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる) 非公開(傍聴できない)	部分公開(部分傍聴できる)	傍聴者数	10人
議題	<p>墨田区基本構想(案)について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前回のご意見を踏まえた変更点について 2 2035年のすみだ(将来像) 3 今後の予定 			
配付資料	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次第 2. 墨田区基本構想(案)【資料1】 3. 第4回墨田区基本構想審議会で寄せられた意見の対応状況等【資料2】 4. 構成の整理について【資料3】 5. 今後の予定【資料4】 			
会議概要	<p>1 事務局説明(墨田区基本構想(案)について) (1) 前回のご意見を踏まえた変更点、2035年のすみだ(将来像)について事務局から資料1及び2、3について説明を行った。 以下、質疑応答</p> <p>(加藤会長)</p> <p>ただいま事務局から基本構想の最終案についてご説明いただいた。前回と比べると、例えばイメージ図、これも実はいろいろと事務局の方で議論いただいて、私の個人的な感想になってしまうが、非常によくできているのではないかと思います。また、キャッチコピーも、これまでの議論を踏まえたものになった。さらに構成について</p>			

も、最後のあたり、非常に細かく計算をされて、作り直されたというような印象。分かりやすく、すっきりとまとまったものではと思っている。ただ、これについては皆様方からいろいろとご意見をいただき、もし修正するところがあったら、考慮していかなければいけないと考えている。

これからご意見をお伺いできればと思うが、皆様にお願ひがある。最初に申し上げたとおり、本日の議論をもって、答申を取りまとめたいと考えている。ご意見がある場合にはできたら、具体的な修正案なども含めてご提案をいただければと考えている。また、ご意見については、お伺いさせていただいた上で、修正については、会長である私と事務局に一任をいただきたいという前提でお願ひできればと思う。その点よろしいか。

(審議会委員からの異議なし)

(加藤会長)

それでは、ご意見、感想などがあれば、挙手いただいてご発言をお願いしたい。

(真鍋委員)

わかりやすくなったと思う。

最初の「はじめに」のところに、東京スカイツリーは入らないか。すみだのこどもたちにとっても、すみだの象徴はスカイツリーだと思う。スカイツリーが入っていないので、違和感を覚えた。

(事務局)

スカイツリーというのが、ある種、建物という位置付けで言えば、一般的な名詞として捉えられるかもしれないが、あくまで1つの民間企業の施設、建物であることを考えたときに、それを行政の制作物の中で取り上げるのは難しいという考えで、区のまとめる表現としては使わない形とさせていただいた。

(真鍋委員)

商標登録されていると、難しいということもある。承知した。

(木村委員)

オープンやHub とかのニュアンスを入れていただいて感謝。ただ、自分が言いたかったニュアンスと修正された文章が若干異なっている部分がある。

「挑戦し続ける」の「外部の知見を取り入れて」というところ、これだと、イメージとしてはSICにデロイトトーマツさんが入っているイメージ。どちらかというところ、この前、「地産地商」という話があったが、中の人々が新しい挑戦、新しい技術や新しい知識を使って、それによって成長するという過程が重要なのではないかと考えている。

やはり公共事業というのは、区内の人達の収入にもなるし、挑戦や成長にもつながると思う。変な例えだが、東京都が800億円の東京都アプリを作るみたいな時に、東京都だから、ほとんど都内の企業だと思うが、きっと裏側のクラウドとかではグ

ーグルとか、いろんなどころにお金を払うとか、そういう丸投げをしてしまう。

墨田区は特にデジタル系がすごく弱いというか、区内に事業者がないので、おそらく外出してしまうのではないかと思う。その外出して、委託してしまうと、そのお金のまんま、成長機会を失ってしまうので、あまり良くないのではないかと思っている。新しいことをチャレンジするという意味で、外でチャレンジしていることを活用しながら、自分たちでやってみるというニュアンスにしたいと思っている。どう修正したらいいか思いつかないが、新しいことを主体的に挑戦するとか、何かそういうニュアンスの方がいいと思った。

(事務局)

前回も少し議論があったところだが、木村委員からは、「価値を高め、広める」の「地産地商」のところに、挑戦というものがあつた方がいいというご意見だったと認識している。ただ、上の「挑戦し続ける」、ここに区内のいろいろな人たちが挑戦できる、挑戦したくなる、そして挑戦を後押しするということを表現としてまとめているので、別の項目のところに、また挑戦が入ってくると、どっちがどっちだか分からなくなるので、「挑戦し続ける」の方で表現したいと思っている。

一方で、「外部の知見を取り入れて」だけだと、委員の考えるニュアンスと違うと思うので、例えば最後の「既存事業者も創業者も、誰もが挑戦できる環境～」という中に、外で起きているようなことも取り入れながら新しい挑戦というようなニュアンスを一言加えられるかどうか検討させていただく。

(木村委員)

どうしても既存事業との組み合わせという制約を作られがち。SICの利用に関しても、印刷業と組み合わせると言われても、なかなか難しい部分がある。だから、墨田区に全くない産業に関しても、新しいこととして挑戦する土台が欲しいという意味で、まさにおっしゃるようなニュアンスが欲しい。言葉の方はどういうものかいいかは思いつかないが。

(加藤会長)

既存の事業者の方々もいらっしゃるということもある。そこのバランスの問題もある。

(佐久間委員)

4ページの未来像の3行目の「暮らしの基盤となる安全を感じられるまちづくりが進み、安全がにぎわいをつくり、にぎわいが地域の安心を生み出しています。」について、安全はすごくいいが、安全がにぎわいをつくり、にぎわいが地域の安心というのは、つながりとしてどうか。にぎわいが安心というのはイメージしにくい。

最後のところ、「人とのつながり」に支えられ～」は、すごくいいこと。キーワードとして、人と人とのつながりが地域力となって暮らしやすいとか、何か「地域力」というキーワードが入った方がいいと思った。

(事務局)

最初の「安全がにぎわいをつくり、にぎわいが地域の安心を生み出しています」という表現について、今まで様々に議論いただく中で、危険な場所には行きたくない、例えば災害が起きたとしても、このエリアであれば安心・安全だというところが、逆に観光客としても行きやすいのではないかというご意見もあった。

また、例えば地方において、災害時に商店街で大火が起きてしまったみたいなお話もあった。燃えない、壊れないそういった商店街には安心して行きやすいみたいなお話もあったので、そういったニュアンス。そしてさらに、そのにぎわいがあること、人の目がたくさんあることということが、結果として安心につながる、そういうまちを目指していきたい。

実は、ここについては裏側でいろいろなご意見もあり、人の目があるというよりも、たくさんの方がいることが、逆に治安の悪化に繋がってないかと。あえて申し上げると、民泊の話などで、そういった声が寄せられているところは事実。

ただし、我々はそういう人が集まってくるということも含めて、安心につながっているまちを目指していくことが大事なのではないか。そういうものをすべて一環として表現していくことが大事なのではないかというところで、安全がにぎわいをつくり、にぎわいが安心をつくるというような表現にさせていただいた。

地域力という表現については少し検討させていただければと思う。

(老田委員)

4ページの大きなキャッチコピーについて、ここは未来完了で表現するというお話であれば、「夢をカタチに」ではなくて、「夢はカタチに」の方が、座りがいい印象を受けた。この下に説明がしっかりあって、最後に、人と人がつながることは書いてあるが、夢がカタチになることは書いてない。なので、笑顔で過ごせるまちになっているのではなくて、夢が実現するまちになっているとかなければ、上のキャッチコピーと下の説明文の関連性はきちんとすると思った。

(事務局)

なかなか踏み込みづらかったところもあり、夢が実現するまでを未来完了系で言えるかどうかというところは少し悩んだところである。「夢をカタチに」というところの表現は、説明文の最初の2行の内容を表している。実現するまで行かなくても、夢をカタチにするために、人がつながって取り組んでいるまち、そういう表現にすると、少しずるいかもしれないが、形として目指せるのではないかと思った。

今のご意見は、もう一步踏み込んだ方がいいのではという指摘と思うので、それを踏まえてもう一度検討させていただく。

(金谷委員)

今の「夢をカタチに」の部分について、「夢をカタチに」は、すごくいい言葉だと思っている。実は私はバブル世代で、バブルの時に入社した会社がCIを作ろうということで、悩みに悩んだ末に「夢をかたち」にした。富士通さんがすでにやっていたということで、今見ると富士通さんはいまだに「夢をかたち」で、他の会社も「夢をかたち」と書いてある。英語で言うと、Dream comes trueで、普

遍的で良い言葉で、考え方もすごくすてきだと思うが、おっしゃるように、言い方を、夢を現実にとか、そうすると、聞き慣れた印象を拭い去ることができるのではないかと思った。

あと、「人がつながり 夢をカタチに」という文章について、何かこう、あっちこっちに行ってしまうと、いつまで経っても結ばない感じがしてしまう。趣旨は素晴らしいが、その辺の整え方というのがあるのではないかなという気がする。

(事務局)

「人がつながり 夢をカタチに」では、人がつながるという部分と、夢がカタチになるという部分が別々のものではなくて、人がつながることで、1人だけではなく、みんなで応援する、みんなでつながって一緒にやっていく、そういった形で夢がカタチになっていく、そういったものを表現したいと思って、このような表現にしている。

今いただいたご意見含めて少し、どういう表現が適切なのかというところは、検討させていただく。どのような形にしても、いろいろなご意見はあるかと思うので、ご理解はいただければと思う。

(老田委員)

今の事務局の説明で言うと、「人がつながり」と「夢をカタチに」の間が空いてしまうことはおかしいかと思う。一体ということであれば、ここにスペースを入れるべきではない。それも含めてお考えいただきたい。

(星野委員)

6ページの「まちづくりの基本理念」の初めの文章の「2035年のすみだの実現に向けて～」の赤い部分「基本構想の根底に流れる大切にしたい思い～」は文章的につながらないのではないかと。何かもう一つ、根底に流れる何とかを大切にするとという文書であればつながると思う。

(事務局)

その「根底に流れる」という表現を、一般の方が聞いて腑に落ちるかというところは確かに指摘のとおり、考える部分があると思う。ただ、込めた思いとしては、過去も未来も現在も、これまですみだというまちが成り立って、たくさんの方が集まって、いろいろなことがあって育まれてきたもの。そして、これから先も大切にしていきたいものというところを表現したいと思っているので、ここの表現をもう少し平易で伝わりやすい表現に修正させていただきたいと思う。

(西村委員)

2点お話をさせていただきたい。1点目が1ページのはじめにの3段目の「いま世界は 不確実性の時代であると言われていています」から始まっているところについて、感染症の流行であるとか、地球規模の気候変動とかはいいが、急速に進行する少子化は多分世界の問題ではなくて、日本とか先進国の問題であったりするので、私達の取り巻く状況の方がよいのではないかと。「世界」という言葉があると、どう

しても地球規模の話になる気がした。地球規模では人口増えているかと思うので、「世界は」にかかるのはどうなのかというのが1点目。

2点目が15ページの「こどもまんなか」というところで、私も子ども子育て会議などで議論をしてきたが、最終的に墨田区としては、こどもの年齢を区切らないという方向で話が進んでいるかと思うので、妊娠期から学齢期というところで切らないのではないかと思う。学齢期で終わりではないというところを踏まえると、文言を「妊娠期から始まり～」とかで、ずっと成長の過程にある人は皆、こども計画の範疇に入るということで、検討していただければと思う。

(事務局)

「はじめに」のところに関しては、一般論的な形で書かせていただいているが、おっしゃられるとおり、最初の、世界的な感染症から国際情勢までが、どちらかというところと世界の話。そこから先は、老朽化が進む社会インフラというところも含めて、日本社会の話というところに少し展開してきているところがある。そういう風な形で文章の流れを作っており、ご指摘のとおり、「世界は」という表現が頭にあることで、誤解を生んでしまうというのは、率直なご意見だと思うので、それを踏まえて検討させていただく。

学齢期に至るまでの、こどもまんなかの部分の話、こちらについては確かにご指摘のとおり、こどもという表現が18歳までとか15歳までとかという話ではないと認識しているので、その整合を図るべく、文章の修正を検討させていただく。

(角山委員)

15ページのところで、先ほど事務局の方からご指摘があった「最善の利益を優先する」、これが、こども権利条約の中にある表現で、そして墨田区としては、これを強調したいという意図があるということであれば、それはそれで結構だとは思いますが、最初に、これを読んだとき、こどもの最善の利益とは何だろうか、利益という言葉自体は儲けとか利潤というような言葉の意味が最初にくる。もちろん、その利益の中には利得、得るものということで、広い意味で、様々な得るものがあるというふうに捉えることはできるが、やはり最善の利益という表現が余りにも生々しい感じがして、少し引っかかりを持つ。

4ページのところで、資料1の3段落目の3行目に、「こどもたちは健やかに成長し」という表現があるので、先ほど挙げてくださった代案でも良いと思うが、例えば、こどもの最大の成長を見守るといったような表現にしても良いと思った。

(事務局)

まさに、ここのところは、行政の人間が知っているからいいという言葉ではいけないと思っている。読んだときに皆さんがどう感じられるか、最善の利益というのが、こどもというところの表現の中で、やはり少し引っかかるという意見が他の皆さんの方でもあるか。

(鈴木委員)

厚労省が最善の利益という言い方をしていたが、今、こども家庭庁の中では、あ

まり使われない。最善ではない利益はあるのかというような意見もあって、ここをやはり先ほどおっしゃってくださったように、むしろ子どもの成長を見守るみたいな、やわらかな表現がいいかと思う。

(山口委員)

そもそも子どもの権利が軽んじられていることが問題かなと思っていて、この文言の中に、子どもの権利という言葉が使われていない。なので、子どもの権利を優先するとか、そういう子どもだけにということ自体を、まず浸透させた方がいいのではないかと思っている。

(事務局)

子どもの権利というのは確かに大切な表現だと思う。今いただいた鈴木委員のご意見も含めて、どちらかという修正した方がよいかと思うので、こちらの方で検討して、最善の利益という表現から、成長であるとか権利であるとか、そういった表現を使う方向で修正していきたいと思う。

(木村委員)

同じページの「子どもの可能性がひろがるまち」の部分について、個人的に最初の子どもの可能性というところが、子どもに限定しているようで、もう少し広い、人間の可能性がひろがるまちとかにした方がいいと思った。

私は元々ビジネススクールで働いていて、グロービスという社会人教育大学でリカレント教育をやっていたが、これからの時代、やはり第2の人生だとか、人生100年時代とかいろいろあると思うが、やはり大人の教育もすごく大切になってくると思う。そうなった時に、この教育を子どもだけに絞っていいのかというのが、若干、腑に落ちないところがあって、できれば、もう少し広がりのある人の可能性が広がるまちとか、せっきく、多様性とかを前半でうたっているのに、教育をここに限定してしまっているのかと思った。

(事務局)

こちらについては、先ほども西村委員の方からあったが、子どもというところで年齢を区切るというよりも、社会的な成長の段階にある方々のところを表現しているので、今おっしゃっていただいたリカレント教育というか、そういった部分のイメージはどちらかという、11ページの文化芸術・スポーツの「生涯を通じて学び続ける、スポーツに親しむ」の中で、生涯学習的なイメージで取り上げたいと思っている。ある種それは縦割りではないのかというような話なのかもしれないが、最初に申し上げたとおり、区としての一定のまとまりを考えた時に、生涯学習の部分と、子どもの教育というところは、やはり切り分けて整理をした方がいいので、そこはご理解をいただければと思う。

(木村委員)

そうすると、「ともに育つ」が引っかかってくる。子どものタイトルにするのであれば、ともに育つというのは、そういった大人も含めて育つ。ここでクロスして

いるのであれば、こちら側にリカレント教育だとか、そういう文面が入ってもいいのではないかと思う。

(事務局)

こちらで「ともに育つ」としているのは、子どもを成長させる力が育っていくというようなイメージで捉えていただければと思っている。親として、保護者として育つであるとか、子どもを成長させていくような力が、地域としても身に付いていくというイメージ。

リカレント教育的な大人の学び、大人の成長というよりも、そういう子どもの成長を支える立場という能力が伸びていくようなイメージを込めたいと思っている

(駒村委員)

11ページの「生涯を通じて学び続ける、スポーツに親しむ」の文章がたどたどしい、「生涯」という言葉が何度も書いてあってどい。文章を整理した方がいい。生涯学習とかも、リカレントという意味と違う捉え方をされてしまう可能性があるなので整理した文章にした方が読みやすい。

それからもう1点、17ページの「みんなで守る」の中で、自助・共助・公助の3助のパターンを取っているが、互助を入れる4パターンもある。意図的に互助を外したパターンで、互助をどこかに入れるパターンを選んだということか。

(事務局)

あえて外したということではなくて、今まで墨田区としては自助・共助・公助のバランスというような言い方をしてきたいて、今まで互助というような表現をとっていなかったのが、事務局の認識として入ってなかった。互助を入れるとしたら、どういうニュアンスで入れるべきかということも入ってくると思うが、いかがか。

(駒村委員)

厚労省が示しているのは、自助は自助努力。共助は割と社会保険的な意味を持っている。公序は福祉的な部分で、コミュニティによる助け合いは互助として独立させて使っている場合もある。ここで迷うのは、共助が何を含んでいるのかという定義。いわゆる厚労省的にいう社会保険に限定するのか。地域コミュニティの互助も含んだ概念として整理しているのかという、概念整理ができていないかという話。

(事務局)

区としては、共助の中に、おっしゃられる、地域コミュニティの中での支え合い、互助の考え方を含んでいるという考え方になっている。

(加藤会長)

私も実は駒村委員と同じ考え方で、やはり共助は社会保険。ただ墨田区が、それを使っているとするならば、すべて変えなければいけなくなってしまうので、問題があると思うが、そこら辺は整理していただければと思う。

(事務局)

他の部署にも確認をさせていただく。ここを変えると、統一的に墨田区としての様々な部分での書き方が変わってくる部分になるので、先ほど申し上げたとおり、互助の部分も含んで共助という表現にしていたのが、墨田区の考え方。少し整理させていただければと思う。

(山本委員)

前回、いろいろと申し上げた。そのあと、具体的にこうした方がいいという提案を送った。基本構成については、これでいい。1点、とても気になっているのが、将来像と未来像の使い分け。資料3では「ありたい姿」。これが括弧で将来像。それから、「それぞれの視点から見た未来像」、「目指すべきまちの姿」、どのように使い分けしているのか。多分これは誤植と思うが、2ページの「2035年のすみだ」では、「将来像をキャッチフレーズで示すとともに～」の。4ページでは、「～以下の未来像を掲げます」。その点について、お答えをいただいた後、私から提案したい。

(事務局)

まだ統一しきれなくて、少しバラバラの書きぶりになってしまっており、申し訳ない。現時点の考え方としては、将来像というものを、全体としてのまちの姿というような形で統一したいので、この第1章の部分、特に4ページのところで、「～以下の未来像を掲げます」となっているところを将来像にしたいと考えている。

それぞれの視点から見た、要するにその将来像を部分的に見ていった部分というところを「未来像」というような書き方でまとめた。違うのではないかというようなご意見があったら、それをいただいて整理したい。

(山本委員)

一般論からすると、将来というのは、2035年、10年で「来る」もの。未来像というのは、将来よりももっと先の話。そうなってくると、それぞれの視点から見た未来像は、一般論からすると、違和感がある。具体的に提案すると、基本構想は将来ビジョンを掲げることなのでここは将来像でいい。であれば、この4ページは、「～以下の将来像を掲げます」という表現でいいと思う。

構成は資料3がわかりやすいと思うが、実現を目指すありたい姿。これが将来像。それぞれの視点から見た未来像とあるが、これはありたい姿、将来像の実現に向けて、それぞれの視点から基本目標を出している。基本理念の章節では、人が主役で、人と人がどうつながって、それがまちの個性にどうなっているのかという内容を書いてある。

それらを一度シャッフルしてしまって、それで基本目標という言葉で、この基本構想策定の議論、最初のスタート時点で設定したと伺っている。であるならば、未来像ではなくて、この基本目標の姿。つまり未来というワードは取った方がわかりやすいと思う。

それと資料3のピラミッド、2035年をめざすことはよくわかる。ワードを変えつつ、それぞれの視点から見た「基本目標とその姿」にすると、落ち着くのか。この三角形の部分も、今言った私の説明でよければ、それぞれの将来像、基本理念、

基本目標の関係を、工夫していただける良いと思う。

具体的に言うと、2ページの下部の「人」の形の図は、ここで議論しても話にならないので、その上の赤字で書いてある2番目のまちづくりの基本理念については3つの基本理念を記載していることを明記し、「それぞれの視点から見た未来像」というワードと、その下の文章はもう少し修文されるといい。

(事務局)

受けとめて検討させていただく。ただ、正しい言葉にこだわりすぎると、もしかすると、言葉が硬くなりすぎるといふところも少し懸念している。そういったところは、いただいた意見を踏まえた上で整理して検討させていただく。

(阿部委員)

今までの皆さん時間かけてきた議論が相当程度尊重、反映されて、事務局がご努力いただいた様子がよく分かる、知性溢れる感じで良いと思う。

2点だけ非常に細かいところ、18ページの「日常を包み込む景色をつくる」のところ、前回までのところから若干、文言修正が入って、「新しいものと古いものなど」となっているが、この「古いもの」というのはすごくネガティブワードな感じがする。まだやっているのかみたいな雰囲気はどうしても出てしまうので、例えば根づいてきたものとか、歴史を感じるものとか、これからもエバーグリーンで残ってってもらいたいという気持ちを感じられるような日本語を、うまく工夫してもらえるといいのではないかとというのが1点。

もうひとつが、先ほど議論があった15ページの、こどものところの「最善の利益」、日本語が先なのか、英語が先なのかわからないが、ベストベネフィットなり、ベストインタレストが、「最善の利益」になってしまっていると思う。だとすると、先ほどこどもの権利の部分も触れられていたが、「恩恵」という言葉がもしかするといいかなという感じがする。上手く使いまわししていただけるとありがたい。

(事務局)

ご提案に感謝する。今いただいたとおり、確かに「古い」と言われると、まるで悪者感も出てくるかもしれないので、もう少しポジティブに伝わるような、それがあることが、その魅力であるというふうにするので、そういったものを伝わるような表現に直させていただく。

「こどもの最善の利益」については、今いただいた表現も含めて検討させていただく。

(駒村委員)

24ページの産業構造、これ統計的に雇用の7割というのは、最新の数字で、すみだの数字ということでよろしいか。

あと、循環共生型社会の生物多様性の「損失」ではなくて、「喪失」だと思う。誤字ではないか。

(事務局)

こちらの23ページと24ページは墨田区のことというよりも、日本社会全体で起きていることというような形で、全体の社会潮流、社会の変化を表現させていただいている。雇用の7割を支える中小企業というのは、すみだではなくて、日本社会全体でというところの数値。

生物多様性の「損失」と書いているところについて、もう一度念のため確認をする。この「気候変動、生物多様性の損失、化学物質やマイクロプラスチック等による汚染」、これは国の第6次環境基本計画において書かれているものを引用しているので、それが誤ってないかを確認して、誤っていた場合修正させていただく。

(山本委員)

「川の手」について。先ほど、事務局が示した冊子は当時とても話題になった。「墨田区なかなかやるなあ」と。実はその冊子の前にも、産業ビジョンの基本構想として、シナリオメイキングの手法で作られている。

また「川の手」のネーミングについては、確かに同じような地理的な状況があるので、他の区でも使われている。少なくとも30年前は、地域特性を表現するキーワードになっていた。それまでマイナスのイメージとして捉えられていた川という存在を、逆にプラスにした。ただ当時からも議論があったが、下町と山の手の対比で、なぜ川の手という言葉を使うのか。実は私30何年前、川の手倶楽部というまちづくり団体を、当時の区の幹部と、企業、市民の人達と作って、10年近く活動してきて、そこで墨田区北部の「川の手」のビジョンを策定した。相当いろいろ議論があった。ただ、その議論というのは、やはり川の手という言葉を使うことによってプラスに転じたことは、加えておきたい。最終的に、ここにそれを復活するかどうかは置いといて、そういう議論のプロセスがあったことを皆さんに紹介しておきたい。

(事務局)

実は区役所の中でも、こういった言葉を知っている職員がすごく少なくなってきているというところが、課題かと感じている。連綿として続いてきた区政というものがあるのであれば、それをしっかりと築きあげていくことも大事なかなと思っているので、今の山本委員のお話はとても大切なことと思う。

(佐藤委員)

15ページの、「こどもの可能性がひろがるまち」のところの「こどもまんなか」という表現が、いろんなところで使われているように感じている。オリジナリティーに欠けてしまうのではないか。イメージはとてもしやすい表現だとは思いますが、これから先に、どちらかという流行り言葉的なイメージがあるので、なにかもう少し良い表現があればと思う。

私は住まいが墨田区菊川なので、江東区との境目で、江東区報とかもよく見るが、こどもまんなかという表記は何度も見ている。東京都の広報でも結構出ている。今はわかりやすいが、これから先でこどもまんなかというと、少し複雑な思いを感じた。

(事務局)

こどもまんなかというのは、こども家庭庁が掲げて、全国的に進めようとしているような言葉。おっしゃられるとおり、やはり、流行り言葉に捉われてしまうと、10年先の未来というところまで、大切にしていけるべき理念という、ビジョンとして掲げていくところの中で、果たして適切だろうか。例えば、SDGsという言葉であったりDXという言葉であったり、そういった言葉が10年後、残っているだろうかというようなところがあるのは事務局としても認識をしている。

そうした中に「こどもまんなか」というのも1つあるかと思うが、区としては、今、こどもまんなかというのが、国が掲げているところもあるが、「こどもまんなか すみだ」というすみだも付け加えた上で、そういう、こどもまんなかのまちを目指すということを非常に重点的な施策として掲げている。現時点においては、このこどもまんなかというビジョンは、10年先もすみだとしては持ち続けていくべき、持っていかなければいけないのではないかというふうに事務局としては考えて、あえて使わせていただいている。

(木村委員)

参考資料のところ、順番を後ろにしたところはとてもよかったと思うが、タイトルが「参考資料」という、少し弱めの印象がある。でも中身は、すごく大切なことが書かれている。これまで、こういう課題があって、そこに意味があるというふうに、事務局がおっしゃったので、参考資料ではなくて、他の言葉はないか。先ほどから考えているが、他の資料で良い表現は何かないか。墨田区を取り巻く課題とか。もう少し意味のあるタイトルが良いと思っている。

(事務局)

最初にご説明させていただいたとおり、議会に議決をいただく本体の部分と、それ以外の部分というところで整理をしている。今回の資料では、人口推計の部分と社会潮流のところを載せている、その後ろは空白が多い形で、タイトルだけ載せていたりするところがあるが、どういう議論をしてきたか、例えばこの審議会を何月何日にどういうテーマで行った。部会ではこういう日程で、こういう人たちが参加した。そういう風な、この本体がまとまるまでの経緯、区民ワークショップをやったとか、そういうところも含めて載せていきたいと思っている。なので、区を取り巻く課題と言ってしまうと、そうしたものが載せられなくなるので、基本構想の本体と、それ以外の資料というようなところの位置付けで今は整理をしている。

(木村委員)

教えていただきたいのが最終アウトプットのパンフレットみたいな形になると思うが、どこの部分が載ってくるのか。この参考資料も載るのか。

(事務局)

最終アウトプットというものをどう指すかによるが、先ほど申し上げたとおり、区議会に提出する議案、議決をいただくべき対象としてはこの第3章までになる。一方で、区として議決を踏まえた上で、広く周知をしていくための冊子形式のもの

のを作りたいと思っている。それが以前最初にお配りをさせていただいた現基本構想の冊子のようなもの。冊子で作るということを想定している。その冊子の中には参考資料が一番後ろにくっついてくるので、全体を合わせて1冊になるようなもので作りたいというところ。

(木村委員)

であれば、その冊子の方に参考資料ではなく、何かもう少し意味がある言葉だと嬉しい。

(駒村委員)

先ほどのこどもの話、ちょうど前の会議がこども家庭庁のこどもまんなかの話をしてきたばかりで、政府の議論になっているのが、こども・若者を政府の審議会に入れる、どんどん数値目標を立てて、政府がやっている。

これ地方も、当然やってもらいたいという話も出てきていて、15ページ、どちらかと言うと、こどもが客体になっているかと思う。こどもが主体として、自分たちの地域を考えると、主体としてのこどもみたいなものもあっていいのではないかと思っている。その視点はこの中に入っているのか。

(事務局)

全体を通じてではあるが、こどもという部分だけでなくというところで、このまちがどういうまちになっているのかという視点で全体を描いているつもりなので、こどもに限らず、おそらくほとんどのところで、人は客体として描かれている感じはするかもしれないと思う。

視点としては、やはり今おっしゃっていただいたように、こどもがしっかり主体的に社会の一員として活躍ができる地域を作っていく。そういうふうなものをイメージとして考えており、今のご指摘は確かに重要な部分なので、表現の方法としては客体としては描きつつも、その主体として地域の主役になって動いているところがこの表現で表現しきれているかどうかという視点で、もう1回見直してみたい。

(平林委員)

19ページの1番下の「移動が快適で楽しい」について、1行目のところで「子育て世帯も高齢者、障がい者も～」とあるが、こどもが抜けているのはなぜなのか。こどもだけで移動するというのも結構ある。

(事務局)

事務局で「子育て世帯も」という表現にしたのが、特に移動等に課題を感じてしまう方のイメージの中で、ベビーカーを押している方が、歩道が歩きにくい、段差がきついみたいな声を行政としてよく聞く部分があったりしたので、そういったものが、こういう形で表れてしまったと思っている。

こどもの視点で見たときにも移動しやすいまち、安全に移動できるまち、これは、佐藤委員の方からも、当初からいただいていた重要な視点かと思うので、その表現、こどもも子育て世代も云々となると長すぎるかと思うので、もしかしたら表現

をまとめるとか、工夫をする中で、こどもも含めた表現に取れるように少し整理をしたいと思う。

(上野副会長)

やはりこれだけの皆さんが長く議論してきたことがすごくまとまっているし、今日出たご意見も、もっともな意見もいっぱいあったので、すばらしいと思った。

私はどちらかという、今後これをどういう形で、より広く区民の皆さんに周知していくのがすごく重要と思う。

墨田区で住んでいたり、働いていたりする人が、墨田区の基本構想はこれということをついで言え、空で話せるぐらいになるためにどうするかということ、冊子にするのも大事だし、冊子のデザインとかを、相当気を使ってやっていただきたいし、SNSとかホームページとか、そういうところでどういうふうに周知していくのか。答申して、議会で承認もらっておしまいというのではなくて、どちらかという、そこから先がすごく大事だと思うので、ぜひその辺考えていただけたらと思う。

(事務局)

今回、新たに基本構想を作ることを議会に報告をさせていただいた際にも、現行の基本構想が区民どれだけ浸透しているのかというところは課題として指摘をされた。事務局としても、この点はできる限り意を用いていきたいと思っている。

ご意見をいただいたので、大変恐縮ではあるが、行政の発信は行政に興味がある人しか見てくれないという課題もあると考えている。今回ご参加いただいた皆様にも、ぜひ発信のところでご協力をお願いしたいのも思っている。団体の方にお伝えをいただくとか、普段の日常の中で知り合いの方にお伝えしていただく。

また行政も、様々な計画の策定や、イベントを開催する際に、その都度うまく伝えていけるようなところを、区役所組織としても取り組んでいきたいと思っているので、ぜひそういった形で、今回本当に長い期間をかけてご審議をいただいたきた、この基本構想が広く伝わっていくように取り組んでいければと思っているので、よろしく願いしたい。

(山口委員)

4ページの「2035年のすみだ」は未来完了形になっているとおっしゃったと思うが、このキャッチコピーは、墨田区が外れても、これが「人がつながる 夢をカタチに」は墨田区のこととなるのが理想というお話だったと思う。これを10年後に実現できたかみたいなことをどなたか評価されるのか。

(事務局)

新しい基本構想を作るにあたって、現行の基本構想について、どの程度達成できたかというようなところを、区民アンケート調査という形で無作為に住民基本台帳から抽出させていただいて、3,000名の方にアンケート調査としてお送りし、それぞれの項目がどれぐらい達成できているか、このタイトルに掲げているようなまちの姿はどれぐらい実現できたと思うかというようなところで評価をいただいた。

新しい基本構想においても、ビジョンを達成できたかどうかというところについては、アンケート調査がすべて答えになっているかという点はあるかと思うが、区民の方々がどの程度、この将来像・未来像というものを認識していて、そういうまちだと受けとめていただけたかというのは、アンケート調査を使って、数字で測れるようにしたいと考えている。

(山口委員)

区としては10年間でこういうまちを目指していくということでもいいか。

(事務局)

おっしゃられるとおり。

(加藤会長)

中長期的にPDCAをまわしていくということになるのか。覚えておいていかなければいけないことかもしれない。

(森山委員)

細かいことは、ここまで議論を尽くしてきているので、あまり話をするつもりはないが、毎回少し気になっていることが、先ほどの将来と未来の違いみたいなものそうだが、漢字の墨田区とひらがなのすみだの違い、比較的表題には墨田区と漢字で使われているが、文章の中が大体すみだのひらがなになっている。この違いはどのように区として考えているのか。

あとまちは全部ひらがなになっている。ひらがなのまちと漢字の町会の町と街路樹の街があるが、この違いをどのように使い分けているのか。いつも区の資料を見ながら考えていて、そこを明確にしていかないと、漢字の墨田区とひらがなのすみだというところのニュアンスは多分違うのではないか。そこを正しく理解していけないと、この全体像が正直見えてこないのかなと思っているので、教えてください。

(事務局)

最初にまちというところのお話でさせていただくが、原則として今、墨田区においては、まちという表現があるときには、ひらがなで表現をするということで統一させていただいているものと認識している。

ひらがなのすみだと漢字の墨田区について、どちらかという和多分ひらがなですみだという表現にしているものをお見かけになられることが多いと思う。ひらがなですみだとしているものについては、基本的に柔らかいニュアンスで伝えようというところ、かっちりとした形というよりも、人であったり、ハードであったり、総体を含めたイメージとしてのすみだというものを表現する時にひらがなのすみだを使うことが多いと考えている。

墨田区と漢字を使う時に関しては、どちらかという、ふわっとしたイメージというよりも、行政圏域であるとか、しっかりとした線引きがあるような、ここからここまでが墨田区というものを明確にするような時に漢字で使うことが多いと考えている。

今回将来像を漢字で墨田区とさせていただいている。こちらは、ひらがなでのすみだにするか、漢字での墨田区にするかというような議論もあった。先ほどもあったが、「こどもまんなか すみだ」というところでひらがなのすみだを使っていたりする。

今回のキャッチコピーを漢字にさせていただいたのは、現状の「人つながる墨田区」というキャッチコピーをベースにした上での、次というところで考えたことから、その漢字での墨田区という表現を引き継ぐこととした。

(加藤会長)

確かに森山委員のおっしゃるところはあるかと思う。4ページは少し整理をされたほうがいい。最初がひらがなで、次が漢字で、またひらがな。そこら辺にご指摘はあるのかなと私も思うのでご検討願う。

(金谷委員)

この基本構想審議会が始まったときから話が出ていたが、横串をどうやって刺していこうかということがあった。最初と最後にその話をして、少しでも横串が刺さればいいかなと思う。

あと、決まりつつある、人がつながるという部分でも、やはりつながるという、違うものが連携して、そういうイメージが随所に溢れてきているのかとは思いますが、それぞれのところで、その部門のことを言いきるということではなくて、もう少しその中のものと関連するもの、言葉として盛り込んでいくと繋がりが出てくるのではないかと。

例えば、10ページ目の観光の部分で、私が思っている観光と防災のつながりというと、世界のインバウンドが今、日本に集まって特に墨田区がすごい。海外のお金を使って、まちを強靱化するというのとは一つの可能性。

一方、民泊とか、一部は迷惑施設と言う人もいるが、そういったものを防災化とか耐震化とか不燃化とか、観光の力を使って進めることができるのではないかと考えている。そこまで基本構想に言い切ることはできないと思うが、例えば観光の力で、まちを強靱化していくとか、そういった概念で横串を作っていくことはできる気がする。

あと、例えば私が思う範囲だが、19ページ、議論の途中で、こどもに防災教育をすることで、高齢者の方も強く認識するという話があったかと思うが、やはり防災というところで、こどもが防災を通して、まちの強靱化を理解していく、成長していくとか、それを防災の方に入れるのか、こどもの方に入れるのか、防災の方にそういう文言があるとつながってくるのではないかと。

(事務局)

ご意見として、まずは受け止めさせていただく。実際のところ、それぞれのところに、こういった要素を入れるべきではないかというところを言い出すと、すべての分野ですべてのことが結局つながってくるので、可能な限りシンプルに伝わればと思う中で整理してきたというところをご理解いただければと思う。

ただ、一方でそうしたところが全部分かれているということではなくて、つなが

っているというところを伝えられるように、将来像のイメージや4ページのところで、一貫性を持って、一つの将来像というものは、すべてのものが重なり合う中でできているというところを伝えたいと思っている。

あと、こどもというところでは15ページの中に、いろいろとご意見をいただいたことを踏まえて、「未来を切り拓く力を育てる」の「防災・ものづくりや伝統文化など、地域の特色を活かした教育～」というところで、こどもたちが防災を学び、成長していくというところを表現させていただいている。

すべてに全部載せてしまうと冗長になってしまうので、少しポイントを絞りながら、こういうところで、できる限りの表現をさせていただいていることはご理解をいただければと思う。

ただ、あとは合わせて、本日いただいたような意見もしっかりと議事録に残して、今後行政計画などを策定する際に、議事録で書かれている、委員の方からいただいた意見を踏まえて作っていくということが大事であると思っているので、その辺はしっかりと私自身が頑張ってお伝えしていきたいと思っている。

(駒村委員)

また、参考資料の人口のところについては、出典を明記してほしい。社人研の地域別将来人口推計を引用ということでよいか。

(事務局)

こちらは社人研から引用しているものではなく、墨田区の住民基本台帳、これの人口動態を踏まえて、コーホート分析をかけた上で、社人研の方で示されているような社会移動の数値などを加味しつつ、あと合わせて東京都が出している、将来人口推計の中で、将来的な東京都全体で人口が減少していく推計が出ていたので、東京都が出している人口減少の係数、そういったところを掛け合わせて作っている。

そういった要素について、やはりわかりやすく、どうやって出したかというところをどう載せるかというところを少し整理させていただく。

確におっしゃられるとおり、どこからどうやって出したのか、墨田区独自のものが、みたいな話かと思うので、そこがしっかりと伝わるように、資料としてまとめたい。

(駒村委員)

これだけ見ると、何から出てきたか分からない、ちなみに社人研の人口推計との差はどうなっているのか。

(事務局)

社人研の人口動態の場合、どちらかというところコーホートで出しているって、ピークがなく、2060年ぐらいまでずっと人口が増加し続ける推計になっている。

ただ墨田区は転入人口によって支えられているという部分が多い中で、日本全体で少子化が起きていて、おそらく転入人口が減ってくるだろうという見込みの時に、この社人研の推計を引用してしまうと、誤った数字として伝わる可能性が高いと考えた。東京都の方が出している推計は社会移動がおそらく減ってくるというこ

とを加味して作られていたので、それを参照、引用して作成した。

(駒村委員)

出典を明記された方がいいと思う。

(加藤会長)

出典は「独自推計」でいいと思う。

(鎌形委員)

今までの長い議論をすっきりとまとめてくださって、今日の意見もきっときちんと納まるのではないかと期待している。

先ほど上野先生がおっしゃったように、この後だけれども、いろんな委員会に出ている、何回も議論して、立派な計画みたいなのができるときは、本体は厚い冊子だが、その概要版ができて、配られたりする。また、概要版の概要というか、A3を2つ折りにした、厚紙ぐらいで、よく防災のマップが何年かに1回配られているが、そういうものとかラポをして、どの家庭にも一緒に保存されるような形にして、せっかくの皆さんの貴重なご意見を多くの区民の方の目に触れて欲しいと思う。

そういうことを言う機会があまりないかと思うので、内容とは違うが、お願いしたいと思う。

(事務局)

できる限り、周知に関してどういうふうなことができるか、本当に目に留めていただく、何となく、そういえばそのフレーズ耳にしたことあるということができるように取り組んでいきたい。今回作ったら、議会への報告に合わせて、この後に説明もさせていただくが、パブリックコメントという意見募集などでもしたいと思っている。その際に区報の特集号を使って配布するなど、そういった取組もしていきたいと思っている。

どうすれば伝わるかというのは、区としての永遠の課題ではあるが、引き続きできる限りのことをしながら、伝えていきたいと考えている。

(真鍋委員)

せっかくいい構想ができたので、こどもにも何か伝わるようにして欲しいと思った。文言を変えることは難しいと思うが、デザインをこども好みにしたり、何かできないか。

(事務局)

こどもまんなかという取り組みを進めている中で、こどもの意見を伺うという取組も、区としてこれからしていこうとしている。様々な機会を通じて、多分この基本構想の文言を全部、伝えようとする、こどもがパンクしてしまうところもあると思うので、すごくシンプルに、一番大切なキャッチコピーの部分など、こどもたちがみんな知っているみたいなことにできるといいと思う。何を伝えるか、どういう風に伝えるかというところも考えながら、工夫をしていきたい。

(加藤会長)

皆様方からいただいたご意見を改めて整理して、もう1回検討させていただきたいと思うが、先ほど申し上げたように、最後の取りまとめについては、私どもに一任という形で、よろしく願いできればと思う。改めて今日の議論を少し整理して、成案を作っていきたいと思っている。ずっと長い期間、非常に多角的な視点からご意見いただき、感謝。非常に素晴らしいものができてくるのではないかと期待している。

次に、今後のスケジュールについて、事務局の方からご説明いただきたい。

(2) 今後の予定

事務局から資料4について説明を行った。

以下、質疑応答

(加藤会長)

今後の予定等について、何かご質問等はあるか。

(岸委員)

今まで何回か審議会であって、私自身はとても勉強になって、特に地域でまちづくりみたいなのに関わっていると、いろんな分野の課題が出てくる。こういう席では、いろんな分野の専門家の先生、それからいろんな団体、いろんな地域の方から様々な角度でご意見いただいて、非常に勉強になって、お礼を言いたい。事務局の方もまだまだ大変だと思うが、しっかりまとめていただける様子なので、非常に私自身はうれしく思っている。

それで最後に皆さんが、これをどうやって発信するか、上野先生からもお話があったが、やはりそれは、我々がやらなければいけないと、行政に任しといたら駄目かなと、私たちが言った意見をちゃんと伝えたいということもある。だから反省会といったら変だが、やはり、これだけの方たちに集まっていたら意見を交わしたということはとても貴重なことなので、これで最後にしないで、本当はもっと私はいろいろお聞きしたいところがたくさんあるので、何かの機会で、こういういろんな分野の方が重なり合って議論できる場をぜひ作っていただきたい。それが私の願い。今まで本当に皆さんから貴重な意見をいただいて感謝。

(事務局)

事務局へのご意見としては、引き続き、情報交換とか情報共有ができる場が欲しいということかと受けとめさせていただいた。どういう形でできるのかということも含めて少し検討させていただき、また、5月19日の会議が終わったら皆さん解散というような話ではなく、もう少し皆さんの方にも定期的に私どもの方から情報発信をさせていただくとか、お声がけをさせていただいたりみたいな工夫はしていきたいと思っている。

(加藤会長)

	<p>岸委員のお話も、事務局の回答も非常に大事なことだと思うので、ぜひここでおしまいにせずに、議論を続けていただければと思う。</p> <p>審議会全体としての議論は、先ほど岸委員からもお話あったが、一応この場としてはここで終了としたい。</p> <p>それでは、本日はこれをもって、すべての議題が終了となる。</p> <p>閉会にあたり、連絡事項等について、事務局の方からお願いしたい。</p> <p>2 事務局からの連絡事項 事務局から次回の日程等について、説明を行った。</p> <p>3 閉会挨拶 加藤会長から挨拶があった。 企画経営室長から挨拶があった。</p>
所 管 課	企画経営室政策担当（内線 3 7 2 2）